

芸術・文化

題字 加登互川



舞台・芸術事業「第十五回 早春の風にのせて」

今年度の舞台・芸術事業は、

「第十五回早春の風にのせて」と題し、邦楽部門の吉田峯山さんのプロデュースで、二〇二五年二月八日（土）に伊丹アイフォニックホールでのメインホールで開催しました。

第一部は、濱口彰さんの掛け声により伊丹太鼓の会のメンバーの元気でリズム感溢れる和太鼓の演奏から始まり、会場を温めました。

続いて、山村貴司さんが、昔話でおなじみの「羽衣伝説」をもとにした能の一曲をハイライトで謡い、曲間には情景が目につくような吉田峯山さんの尺八演奏で注目を集めました。

続いて、菊良ゆう子さんらによる箏曲に合わせ、山村若萌紀さんによる地歌舞「笹の

「露」を披露。古今東西の酒にまつわる故事・伝承を読み上げた別名「酒」と呼ばれる曲で、まるで酔人の赤ら顔と千鳥足が見えるような舞や音色が奏でられました。

第一部最後のステージでは、吉田峯山さんが能登半島の日も早い復興を願い、祈りを込めて作曲した「ふるさとにく祈り」他が披露されました。

第二部最初のステージで



は、自身の活動二十周年を迎えた井上歓喜さんによるサクソとピアノのデュオで今回の演奏会に合わせてアレンジしたJazzメドレーを披露し、会場の雰囲気を一変させました。

続いて、昨年度、伊丹市芸術家協会新人賞を受賞した山田由香里さんによるピアノ演奏。山田さんは、司会も兼ねての出演となり、アナウンサーとしての実力も発揮しました。



邦楽・洋楽のコラボ演奏では尺八とピアノによるクラシック曲をメドレーで披露。続いてのコラボ演奏では、琴による映画音楽メドレーにサクソ演奏を交えて披露。ファイナーレでは大きな満月が



舞台を照らす中、箏と尺八、太鼓、サククスにより「月にまつわる曲」をメドレーで披露し、懐かしさと華やかさが混ざったステージで会場を大いに盛り上げました。

三百八十二人が来場され、伊丹市芸術家協会ならではの多様な内容の演奏会となりました。



伊丹市芸術家協会展は、二〇二五年三月十二日（水）から二十三日（日）までの十一日間、市立伊丹ミュージアムの展示室で開催しました。新会員二名のお披露も兼ね、計四十八点（絵画十八点、彫刻一点、工芸七点、書十二点、写真八点、デザイン二点）を展示しました。来場者の皆様にも、各会員の感性溢れる作品をご鑑賞いただきました。



芸術家協会展会期中の二〇二五年三月十五日（土）、造形部門（書）の酒居石荘さん、畑間青露さん、福谷華紅さんによるワークショップ「篆刻にチャンレジ！マイはんこをつくらう」を開催しました。

参加者は、篆刻について学び、石材に自分の名前の一文字を彫り、世界で一つの印の出来上がりに満足のご様子でした。

展覧会関連事業を 開催



伊丹市芸術家協会

新会員決定

北 浩二さん（絵画）
宮内文雄さん（写真）

令和六年度伊丹市芸術家協会に洋画家の北浩二さんと写真家で映像作家の宮内文雄さんを新会員にお迎えしました。

北さんは、青木敏郎主催の大徳寺絵画研究所、鴨居玲教室で学び、一九八三年日動画廊主催「第六回現代の裸婦展」で入選を受賞、その後百貨店、画廊にて個展やグループ展を精力的に開催。伊丹市内でもクロッキー、油絵教室など若手作家の育成に尽力されています。

宮内さんは、一九七六年、大駱駝艦天賦典式「嵐」の公演にて磨赤兒さんに出会い、以降、大駱駝艦所属のカメラマンとして磨さんの全活動に同伴。一九八〇年TVプロダ

クション「テレコムジャパン」（現テレコムスタッフ）に入社し、ムービーカメラマン及びスチールカメラマンとして活躍されました。

その後、フリーカメラマンとしてNHK番組「心の旅」磨赤兒編、海外ドキュメンタリー番組など多数手掛けられ、一九九九年テレコムスタッフに技術部責任者として復帰後も、テレビ朝日「世界の街道をゆく」の撮影技術プロデューサーとして二〇二一年の番組終了まで参画。退社後、東京から故郷の伊丹市に戻って来られました。

新会員お二人の入会により、活動の幅が広がる伊丹市芸術家協会にご期待ください。

新会員エッセイ

鴨居玲作品の魅力

北 浩二

この度は、伊丹市芸術家協会にご推薦いただきありがとうございます。同協会の諸先輩方々と活動を共に出来たことを大変光栄に存じます。

私は二十歳の頃、鴨居玲デッサン教室で学んでおりました。一九八三年日動画廊の裸婦展に入選したことが画家としての第一歩ですが、その展覧会を勧めてくれたのが鴨居先生であり、その手配までしてくださいました。

二〇一五年伊丹市立美術館（現市立伊丹ミュージアム）で開催された「鴨居玲展」を観に行き、先生の絵を見た途端、当時の楽しかった日々が鮮明に蘇った事を今でも覚えています。

先生の作品は、酔っ払いのおじいさん、道化師、首吊り

などを題材とし、人間の心の闇を感じるような作風で怖い印象を持つ人もいますが、先生の絵の素晴らしさは「何を描いたか」ではなくて「どう描いたか」にあります。先生の表現者としての目差は冷徹で、そこには西洋古典絵画における物の見方を視ることが出来ます。

西洋古典絵画では人物を描くとき陰影を追わず、陰影を手掛かりとして人体構造を表現しており、先生の作品も古典絵画の基礎の上に成り立っているのだと思います。最近では写真絵画が人気ですが、それは西洋古典絵画とは似て異なるものです。



北さん作品「シルバーポットとレース」



花柄のミルクピッチャーと葡萄

これからは、伊丹市芸術家協会の一員として、西洋古典絵画の物の見方、油絵の技術等を広める活動をしていけたらと思っています。

新会員エッセイ

「記録」から「記憶」へ 宮内文雄

伊丹市若菱町に生まれ五十余年東京で写真、動画撮影に従事し、二〇二四年の春より故郷・伊丹に帰郷して参りました。

思えば約六十年前の中学生の頃、カメラ小僧の私が毎週末「松村写真店」のショーウインドウに置かれた当時のハ

イエンドカメラ「Nikon F」（当時七万円）を憧れの眼で眺めていたところ、松村御兄弟に声を掛けられ、カメラを手に取らせて頂いた事が私にとって「写真家」の「原点」だと思っています。

当時の松村写真店は、夕方になると近隣の写真愛好家や名士が先代御主人のもとに集い、写真やカメラ談義に花を咲かせ、まるで「アートサロン松村」の様相でした。

日本大学写真学科に入学後、機材の選択や購入など様々な写真術等を教わり、帰郷の度に松村写真店を訪問しました。

東京での学生時代、写真界では、写真は「記録」か「表現」かの論争真つ盛りで、戦後の報道写真から新しい「表現」が模索され、次々に素晴らしい作品が登場する時代でした。

そんな中で、動画に興味湧きテレビのCM会社に就職

し、スチールカメラ出身の動画カメラマンとして三五ミリフィルムの修行を始め、約十年後に、技師として自立、以後「写真」と「動画」の二刀流カメラマンとしてNHKや民放各局の海外ドキュメンタリー番組で世界数十カ国の撮影を担当してきました。

北極、南極、アマゾン奥地など観光旅行では訪れることのできない世界各地を撮影するなど、様々な風景や人々と触れ合いは、大きな財産であり記憶に焼きついています。

そういう中で世の中全体でも大きな変化として「IT時代」が到来しました。

映像制作でも様々の分野で「アナログ」から「デジタル」に移行が進み、銀塩フィルムから半導体メモリーが記録媒体となり、各種撮影機材等も飛躍的に発展しています。

デジタルカメラ、スマートフォン等の性能は、長年培っ

てきた写真術を凌ぐ程の進化を続けています。

今や一億総カメラマン時代。そういう中で、我々映像制作者としていかなる制作をしていくのが課題で、「記録」ではなく「記憶」に震撼させるのがプロとしての映像制作です。

写真の発表媒体も、SNS等で簡単に多くの人々に伝播できる中で、スマホ画面やPC画面での映像鑑賞ではな

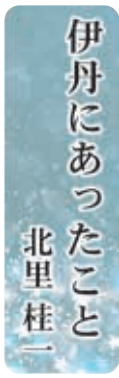


宮内さん撮影風景

く、長時間鑑賞するに耐える紙プリントの復権ができればと思います。かつて素晴らし写真家のオリジナル銀塩プリントを鑑賞した時の感動は忘れ難いものがあります。

今回の入会を機に伊丹での展覧会出品や個展の開催で、約九万点に及ぶ自身の作品整理や貴重な写真を発掘しながらプリントを発表できる機会を探っていきたいと思います。

今まで旅から旅での撮影生活、これからは「伊丹」という定点から見つめた映像制作を新しい一歩とし、伊丹市芸術家協会の発展に寄与できればと思います。



不覚にも大腿骨を骨折したことは前号でお伝えしましたが、その後約二カ月間、北村にあるリハビリテーション専

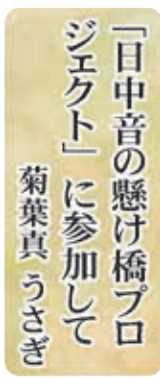
門の病院に入院していました。窓から外を眺める日常が続きましたが、北村には小学校入学前から大学を卒業するまで住んでいたもので、ちょうど目の前の大阪機工の社屋が解体されるのを見ながら思い出すことがいろいろとありました。

当時、父は経理の専門家として北村にあるアカシア製作所というピアノの製造会社と呼ばれ、京都から移住し、会社経営に関わっていました。しかし、会社自体は戦時中のためピアノを製造できなくなっていました。その高度な木工技術を応用して、戦闘機の補助タンクを製造していたのです。

戦争が終わり、再びピアノの製造に戻り、アカシアのちにマイツシュナーピアノという銘柄で、学校の音楽室などで時々見かけるようになりました。工場にはグラランドピアノのための大きな板が立てかけて乾燥させてあり、独特な

風景を見せてくれましたが、時勢のせいもあり、会社は経営難で倒産しました。そして、父は経済専門の教員に転職してしまいました。

しかし、その後このアカシア製作所の社員の中で世間の注目を浴びる人たちが出てくるのです。それはピアノの調律の人です。多くの人たちが調律師として自立されていきました。現在、会社があった場所は、運送会社や大型家電量販店が入り、風景は全く変わってしまい、伊丹にピアノを製造する会社があったことなど知る人もいなくなってきました。



昨年十一月六日から十日まで五日間、こうべ邦楽ワークショップ主催「日中音の懸け橋プロジェクト」杭州く上海

に、名村茂代代表を含む十名の演奏家と共に参加してまいりました。

この事業は二〇二八年に日中平和友好条約五十周年を迎えるにあたり、国内のみならず中国各地において邦楽合奏団と中国民族楽器による演奏会を展開していくものです。

最初に杭州日本人学校での演奏と体験授業がありました。小学生から高校生のこちらを見つめる目はキラキラとし純粹そのもので、私たちが和楽器で校歌を演奏すると歓声を上げ、大きな声で歌ってくれました。

楽器体験は全員で全ての楽器を順番に進めていき、時間はあまりにも短かったのですが、それぞれが楽しんでくれた様子です。この経験が子供たちの記憶に残ってくれば良いと思います。

上海では日本国総領事館で演奏とワークショップを行い



杭州日本人学校公演・授業

ましたが、定員の倍以上の申し込みがあり、抽選となるほどの人気で、たくさんのお客様が演奏と体験を堪能してくださいました。

今回は十一名の演奏者に加えて解説・監修に和楽器の歴史などのたぐさんの本を執筆されている釣谷真弓先生もご同行下さり、内容の濃い時間を過ごせました。

政治的に日中関係は複雑な事となつてはおりますが、今



上海日本国総領事館公演

回のイベントで一緒にさせていただいた方々も街で出会った方々もとても親切で心安く旅を進めることができました。これも名村代表と梶田事務局長の長年の働きかけに他ならないと思います。今後

国境を超えて音楽の友好を深めていきたいと願っています。

芸術文化活動支援事業報告



昨年十一月十五日(金)、伊丹アイフォニックホールにて「田村かよ子&田村香絵子 ジョイント・リサイタル」を開催致しました。コロナが落ち着きだした二〇二一年より、同ホールでのジョイント・リサイタルを始めて四回目となります。

ようやくコロナ禍から解放され日常が戻ってきたかと思えば、ウクライナやガザ地区の紛争など世界は平和から逆に遠ざかっていくような情勢となつてしまいました。このような中にあつても、日本の私たちは無事に過ごすことができます。そして今日も

一日また音楽に携わることが許される、その感謝と喜びの思いをさらに強くした演奏会となりました。

プログラムは平和への祈りを込めてシューベルトの Ave・Maria、バッハのカンタータで幕開け、二〇二四年生誕一〇〇年の團伊玖磨、没後一〇〇年のイタリアはプッチーニの作品を紹介。

また、ライフワークのロシア歌曲からムソルグスキー作曲「ゴパーク」やロシア民謡、その他「ローレライ」「野ばら」などの愛唱歌、さだまさし作詞作曲「最期の歌」ほか、クラシックの枠を超えた様々なジャンルの曲を取り上げました。愛唱歌では客席の皆様も口ずさんでいただき、一緒にコンサートを作り上げているような一体感に包まれました。

年を経るにつれ自分たちも周りの状況も変化していきま

す。その中で歌を続けるのは簡単ではありませんが、人生の目標であり、歌を愛する皆様の笑顔に勇気と力を頂いています。歌うことで元気になる笑顔の輪が広がる、そんな音楽の、歌の力に魅せられた者の一人として、これからも精進して参ります。



ジョイントリサイタル

会員活動通信

(部門別50音順)

〈邦楽〉		
菊井 松音・菊葉真 うさぎ 菊井箏楽社第54回定期演奏会 大阪・関西万博 世界を彩る日本の響き 都山流尺八楽創始130周年記念全国演奏会 伊丹三曲協会第94回箏・三弦・尺八による邦楽演奏会 都山流大阪府支部第56回尺八演奏会 菊井箏楽社独奏会第19回華のコンサート	兵庫県立芸術文化センター 大阪・関西万博内フェスティバル・ステーション 兵庫県立芸術文化センター スワンホール 大阪国立文楽劇場 伊丹アイフォニックホール	2025年 4月13日(日) 5月1日(木) 5月10日(土) 5月25日(日) 6月29日(日) 8月23日(土)
菊井 松音 都山流大阪府支部水川寿也作曲講習会	玉水記念館	9月21日(日)
菊良 ゆう子 2025年日本国際博覧会大阪・関西万博 箏・三弦・尺八演奏	大阪・関西万博内フェスティバル・ステーション	6月2日(月)
山村 若萌紀 山村若佐紀上方舞 夏の会 鳴く虫と郷町	国立文楽劇場 市立伊丹ミュージアム(旧岡田家住宅)	8月31日(日) 9月中旬
〈絵画〉		
北 浩二 2025Spring MITSUKOSHI Art Weeks 大阪高島屋企画展「No Water No Life -水を考察する-」	日本橋三越本店本館催物会場 高島屋大阪店美術画廊	2025年 5月14日(水)～19日(月) 7月30日(水)～8月4日(月)
宮内 文雄 鷹 赤兒「ガドウィンの河を渡るとき」写真展	アートホール蔵	6月1日(日)～7日(土)
吉田 廣喜 個展	ギャラリー勇斎	9月23日(祝)～10月5日(日)

編集・発行 伊丹市芸術家協会

〔事務局〕伊丹市文化振興課

〒664-8503 兵庫県伊丹市千僧1丁目1番地

TEL 072-784-8043 FAX 072-784-8048

計
報

造形部門の松本紀子様が令和6年8月20日にご逝去されました。ここに謹んでご冥福をお祈り申し上げます。